

運営費削減で活動継続の危機

国立映画アーカイブ、クラウドファンディングで支援募る

日本で唯一の国立映画専門機関・国立映画アーカイブ(東京都中央区京橋)が6月25日、クラウドファンディング(CF)を開始した。国からの運営費交付金が激減し、活動の継続、さらには所蔵資料の保存が危ぶまれている。同館では日本映画を中心に9万本超のフィルムを収集・保存。上映会や展示会を通じて、「映画文化」を未来へつなぐ活動を行っている。ただ、その活動が立ち行かなくなる可能性があると、同館によると、2024年度当初予算で国からの運営費交付金は6億8291万円だったのが、2026年度は3億5856万円と大幅に減少した。さまざまな経費削減などに

取り組んできたが、人件費や光熱費など固定費にも足りない状況。上映や展示会など館の自己収入でカバーしたい考えだが、それも限界があるため、今回CFに踏み切った。目標額は1億円。今年度の活動を続けるうえで最低限必要な額だという。支援を募る記者会見で、榎本章館長は「当館が社会にとって欠かせない存在となるべく、さまざまな課題に積極的に応えられるような国立映画アーカイブの新しい姿を作っていく努力を続けていきたい」と決意を語り、支援を呼びかけた。



会見で支援を訴える国立映画アーカイブの榎本章館長(中央)ら

国立映画アーカイブ クラウドファンディング	
名称	使命は人類の記憶を繋ぐこと。 国立映画アーカイブの活動にご支援を
目標金額	1億円
使途	同館の運営費全般 (収集・保存・修復・復元、上映・展示等の公開事業等)
募集期間	2026年6月25日8時～9月23日23時
URL	https://readyfor.jp/projects/NFAJ2026
支援コース	5000円から500万円まで ※グッズコース、特別体験コース、お名前掲出コース 純粋応援コース、法人様向けコース